

茨城県域統合型地理情報システム 空間データ製品仕様書

平成19年3月

茨城県企画部情報政策課

目次

1. 概覧	1
1.1. 製品仕様書の作成情報	1
1.2. 空間データの目的	2
1.3. 空間範囲	2
1.4. 時間範囲	2
1.5. 引用規格	2
2. 製品仕様書適用範囲	2
3. データ製品識別	2
4. データ内容及び構造	3
4.1. 地物項目一覧	3
大縮尺基図データパッケージ	3
地番図家屋図データパッケージ	7
デジタルオルソフォトデータパッケージ	7
4.2. 応用スキーマおよび応用スキーマ記述	8
大縮尺基図データパッケージ	8
境界等	8
都府県界	8
郡市・東京都の区界	8
町村・指定都市の区界	9
大字・町・丁目界	9
所属界	10
道路	11
真幅道路	11
軽車道	11
徒歩道	11
庭園路	12
建設中の道路	12
道路施設	13
道路橋	13
徒橋	13
横断歩道橋	13
歩道	13
石段	14
地下街・地下鉄等出入口	14
道路のトンネル	14
分離帯等	14
道路の雪覆い等	15
並木	15
鉄道	16
普通鉄道	16
路面電車	16
特殊軌道	16
索道	17
建設中の鉄道	17
鉄道施設	18

鉄道橋	18
跨線橋	18
鉄道のトンネル	18
停留所	19
プラットホーム	19
鉄道の雪覆い等	19
建物	20
普通建物	20
堅ろう建物	20
普通無壁舎	20
堅ろう無壁舎	21
建物付属物	22
門	22
屋門	22
建物記号	23
官公署	23
裁判所	23
検察庁	23
税務署	24
郵便局	24
森林管理署	24
交番	24
消防署	24
職業安定所(ハローワーク)	25
役所支所及び出張所	25
神社	25
寺院	25
キリスト教	25
学校	26
幼稚園・保育園	26
公会堂・公民館	26
保健所	26
病院	27
銀行	27
協同組合	27
倉庫	27
火薬庫	27
工場	28
変電所	28
揚・排水機場	28
ガソリンスタンド	28
小物体	29
墓碑	29
記念碑	29
立像	29
路傍祠	29
灯ろう	30
鳥居	30
坑口	30
独立樹(広葉樹)	30
独立樹(針葉樹)	31
油井・ガス井	31

起重機	31
タンク	31
煙突	31
高塔	32
電波塔	32
灯台	32
灯標	32
水位観測所	32
輸送管(地上)	33
輸送管(空間)	33
送電線	33
水部	34
水がい線	34
一条河川	34
かれ川	34
水部に関する構造物	36
棧橋(鉄、コンクリート)	36
棧橋(木製・浮棧橋)	36
防波堤	36
渡船発着場	36
ダム	37
滝	37
せき	37
水門	37
不透水制	37
透過水制	38
敷石斜坂	38
構囲等	39
人工斜面	39
土堤	39
被覆	39
かき	39
へい	40
場地	41
区域界	41
駐車場	41
園庭	41
墓地	42
材料置場	42
噴火口・噴気口	42
温泉・鉱泉	42
植生	43
植生界	43
耕地界	43
田	43
畑	43
さとうきび畑	44
パイナップル畑	44
桑畑	44
茶畑	44
果樹園	44
その他の樹木畑	44

芝地	45
広葉樹林	45
針葉樹林	45
竹林	45
荒地	45
はい松地	46
しの地(笹地)	46
やし科樹林	46
湿地	46
砂れき地	46
等高線	47
等高線(計曲線)	47
等高線(主曲線)	47
等高線(補助曲線)	47
凹地(計曲線)	47
凹地(主曲線)	48
凹地(補助曲線)	48
凹地(矢印)	48
変形地	49
土がけ	49
雨裂	49
洞口	49
岩がけ	49
露岩	50
散岩	50
さんご礁	50
基準点	51
三角点	51
水準点	51
多角点等	51
公共基準点(三角点)	51
公共基準点(水準点)	52
電子基準点	52
標石を有しない標高点	52
図化機測定による標高点	52
注記	53
(注記)市・東京都の区	53
(注記)町・村・指定都市の区	53
(注記)市町村の飛び地	53
(注記)大区域	53
(注記)大字・町・丁目	53
(注記)小字・丁目	54
(注記)通り	54
(注記)道路の路線名	54
(注記)坂・峠・道路施設・インターチェンジ等	54
(注記)鉄道の路線名	54
(注記)駅、操車場、信号所、鉄道施設	54
(注記)橋	54
(注記)トンネル	55
(注記)独立又は集団の建物	55
(注記)小物体	55
(注記)水部	55

(注記) 水部に関する構造物	55
(注記) 場地	55
(注記) 植生	55
(注記) 山地	56
(注記) 基準点	56
(注記) 説明注記	56
指示点	56
地番図家屋図データパッケージ	57
固定資産データ集合パッケージ	57
固定資産データ集合	57
固定資産地物	57
固定資産土地パッケージ	58
固定資産境界点	58
固定資産境界	59
固定資産筆	60
固定資産地番	60
所在地番	61
固定資産家屋パッケージ	62
建物界	62
補助建物界	62
固定資産特有家屋界	63
固定資産家屋境界	63
固定資産家屋	63
家屋番号	63
デジタルオルソフォトデータパッケージ	65
デジタルオルソフォト	65
5. 参照系	65
5.1. 座標参照系	65
5.2. 時間参照系	65
6. データ品質	66
6.1. 品質要求	66
6.2. 評価手順	72
7. データ製品配布	81
7.1. 大縮尺基図データパッケージ	81
7.2. 固定資産データパッケージ	81
7.3. デジタルオルソフォトデータパッケージ	82
8. メタデータ	82
9. その他	82

1. 概覧

1.1. 製品仕様書の作成情報

題名 茨城県域統合型地理情報システム空間データ製品仕様書

日付

日付 2007-04-01

日付型 001 作成日

版 1.0

版の日付 2007-03-23

識別子

識別子の型

引用された責任者

組織名 茨城県 企画部 情報政策課

役職名 情報政策課長

問合せ情報

電話番号

電話029-301-2549

ファクシミリ番号 029-301-2598

住所

住所 笠原町978-6

市区町村 水戸市

都道府県 茨城県

郵便番号 310-8555

国 JP

電子メールアドレス joho4@pref.ibaraki.lg.jp

オンライン情報資源

リンク <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/kikaku/jyosei/>

プロトコル http

応用プロトコル

オンライン情報源名称 茨城県企画部情報政策課

記述

機能 002 情報

案内時間 8:30～17:00

問合せのための手引き なし

表現形式 001 デジタル記録文書

シリーズ

シリーズ名称 茨城県域統合型地理情報システム空間データ

巻・号の識別情報 2007年度版

その他の引用の詳細

1.2. 空間データの目的

茨城県域統合型地理情報システム空間データ製品仕様書に基づいて作成される空間データ（以下、「茨城県域統合型地理情報システム空間データ」という）は、茨城県及び県内市町村の共同整備・共同運用による「茨城県域統合型 GIS（地理情報システム）」へ搭載するとともに、県及び各市町村の個別地図関連業務での共通な利用形態である、「目的とする地域を探す」「現況を把握する」「他のデータを追加するときの基盤とする」「空間データそのものを更新する」ことの用に供することを主な目的とする。

1.3. 空間範囲

茨城県域統合型地理情報システム空間データの空間範囲は、茨城県内とする。

1.4. 時間範囲

茨城県域統合型地理情報システム空間データの時間範囲は、別途発注仕様書にて定める。

1.5. 引用規格

- ・ 測量法（昭和二十四年六月三日法律第百八十八号）
- ・ 茨城県公共測量作業規程(国土地発第 548 号)(国土交通省公共測量作業規程と同内容)
- ・ 地理情報標準プロファイル（JPGIS） Ver1.0（国土地理院技術資料 A・1-No.304）
- ・ 拡張デジタルマッピング実装規約（案）改訂版（国土地理院技術資料 A・1-No.291）
- ・ 平成 16 年地番現況図・家屋現況図基準マニュアル（財団法人資産評価システム研究センター）
- ・ デジタルオルソ作成の公共測量作業マニュアル（国土地理院技術資料 A・1-No.289）

2. 製品仕様書適用範囲

- ・ 適用範囲識別
茨城県域統合型地理情報システム製品仕様書適用範囲
- ・ 階層レベル
データ集合

3. データ製品識別

- ・ 空間データ製品の名称
茨城県域統合型地理情報システム空間データ
- ・ 日付
データ製品の日付は、別途発注仕様書にて定める。
- ・ 問い合わせ先
茨城県企画部情報政策課
〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978-6
電話：(029) 301-2549、FAX：(029)301-2598
電子メールアドレス：joho4@pref.ibaraki.lg.jp
- ・ 地理記述
データ製品の地理記述は、別途発注仕様書にて定める。

4. データ内容及び構造

4.1. 地物項目一覧

大縮尺基図データパッケージ

分類	地物項目名称	(参考)分類コード	
境界等	都府県界	11	01
	郡市・東京都の区界		03
	町村・指定都市の区界		04
	大字・町・丁目界		06
	所属界		10
道路	真幅道路(街区線)	21	01
	軽車道		02
	徒歩道		03
	庭園路		06
	建設中の道路		09
道路施設	道路橋(高架部)	22	03
	徒橋		05
	横断歩道橋		11
	歩道		13
	石段		14
	地下街・地下鉄等出入口		15
	道路のトンネル		19
	分離帯等		26
	道路の雪覆い等		28
	並木		38
	鉄道		普通鉄道
路面電車		03	
特殊軌道		05	
索道		06	
建設中の鉄道		09	
鉄道施設	鉄道橋(高架部)	24	01
	跨線橋		11
	鉄道のトンネル		19
	停留所		21
	プラットホーム		24
鉄道の雪覆い等	28		
建物	普通建物	30	01
	堅ろう建物		02
	普通無壁舎		03
	堅ろう無壁舎		04
建物付属物	門	34	01
	屋門		02
建物記号	官公署	35	03
	裁判所		04

分類	地物項目名称	(参考)分類コード	
建物記号	検察庁	35	05
	税務署		07
	郵便局		09
	森林管理署		10
	交番		15
	消防署		16
	職業安定所(ハローワーク)		17
	役所支所及び出張所		19
	神社		21
	寺院		22
	キリスト教		23
	学校		24
	幼稚園・保育園		25
	公会堂・公民館		26
	保健所		31
	病院		32
	銀行		34
	協同組合		36
	倉庫		45
	火薬庫		46
	工場		48
	変電所		50
揚・排水機場	56		
ガソリンスタンド	60		
小物体	墓碑	42	01
	記念碑		02
	立像		03
	路傍祠		04
	灯ろう		05
	鳥居		07
	坑口		19
	独立樹(広葉樹)		21
	独立樹(針葉樹)		22
	油井・ガス井		25
	起重機		28
	タンク		31
	煙突		34
	高塔		35
	電波塔		36
	灯台		41
	灯標		43
	水位観測所		51
	輸送管(地上)		61
	輸送管(空間)		62
	送電線		65
水部	水がけ線(河川)(湖池等)(海岸線)	51	01

分類	地物項目名称	(参考)分類コード			
	一条河川		02		
	かれ川		03 (6340)		
水部に関する構造物	栈橋(鉄、コンクリート)	52	02 (6110)		
	栈橋(木製・浮栈橋)		03		
	防波堤		11 (6110,5232)		
	渡船発着所		21		
	ダム		(6110,6101)		
	滝		26		
	せき		27		
	水門		28		
	不透水制		31 (6110)		
	透過水制		32		
	敷石斜坂		39		
	流水方向		41		
	構囲等		人工斜面	61	01
			土堤等		02
被覆		10			
かき		30			
へい		40			
場地	区域界	62	01		
	駐車場		12		
	園庭		14		
	墓地		15 (4201)		
	材料置場		16		
	噴火口・噴気口		21		
	温泉・鉱泉		22		
	植生界		63	01	
耕地界	02				
田	11				
畑	13				
さとうきび畑	14				
パイナップル畑	15				
わさび畑	16				
桑畑	17				
茶畑	18				
果樹園	19				
その他の樹木畑	21				
芝地	23				
広葉樹林	31				
針葉樹林	32				
竹林	33				
荒地	34				
はい松地	35				
しの地(笹地)	36				
やし科樹林	37				
湿地	38				

分類	地物項目名称	(参考)分類コード			
	砂れき地		40		
等高線	等高線(計曲線)	71	01		
	等高線(主曲線)		02		
	等高線(補助曲線)		03		
	凹地(計曲線)		05		
	凹地(主曲線)		06		
	凹地(補助曲線)		07		
	凹地(矢印)		99		
	変形地		土がけ	72	01
雨裂		02			
洞口		06			
岩がけ		11			
露岩		12			
散岩		13			
さんご礁		14			
基準点		三角点	73		01
	水準点	02			
	多角点等	03			
	公共基準点(三角点)	04			
	公共基準点(水準点)	05			
	電子基準点	08			
	標石を有しない標高点	11			
	図化機測定による標高点	12			
	注記	(注記)市・東京都の区		81	10
(注記)町・村・指定都市の区		11			
(注記)市町村の飛び地		12			
(注記)大区域		13			
(注記)大字・町・丁目		14			
(注記)小字・丁目		15			
(注記)通り		16			
(注記)道路の路線名		21			
(注記)坂・峠・道路施設・インターチェンジ等		22			
(注記)鉄道の路線名		23			
(注記)駅、操車場、信号所、鉄道施設		24			
(注記)橋		25			
(注記)トンネル		26			
(注記)独立又は集団の建物		31			
(注記)小物体		高塔、灯台、坑口、記念碑、 墓碑、鳥居、輸送管	42		
(注記)水部		河川	51		
		一条河川			
		湖池			
		内湾、港			
		岬、崎、鼻、岩礁			
		河岸、河原、洲、滝、浜、 磯			

分類	地物項目名称	(参考)分類コード		
	島	52		
	(注記)水部に 関する構造物			せき、水門、渡船発着所 堤防、ダム
	(注記)場地			公園、運動場、牧場、飛行 場、ゴルフ場、材料置場、 温泉、採鉱地、碎石地、城 跡、史跡、名称、天然記念 物等
	(注記)植生	63		
	(注記)山地	山	71	
		小峰、丘、塚		
		谷、沢		
	(注記)基準点	三角点、水準点、多角点、 標識を有しない標高点	73	
図化機測定による標高点、 等高線数値				
(注記)説明注記		81		
指示点	指示点	81	99	

地番図家屋図データパッケージ

分類	地物項目名称
固定資産土地	固定資産境界点
	固定資産境界
	固定資産筆
	固定資産地番
固定資産家屋	建物界
	補助建物界
	固定資産特有家屋界
	固定資産家屋境界
	固定資産家屋

デジタルオルソフォトデータパッケージ

分類	地物項目名称
デジタルオルソフォト	デジタルオルソフォト

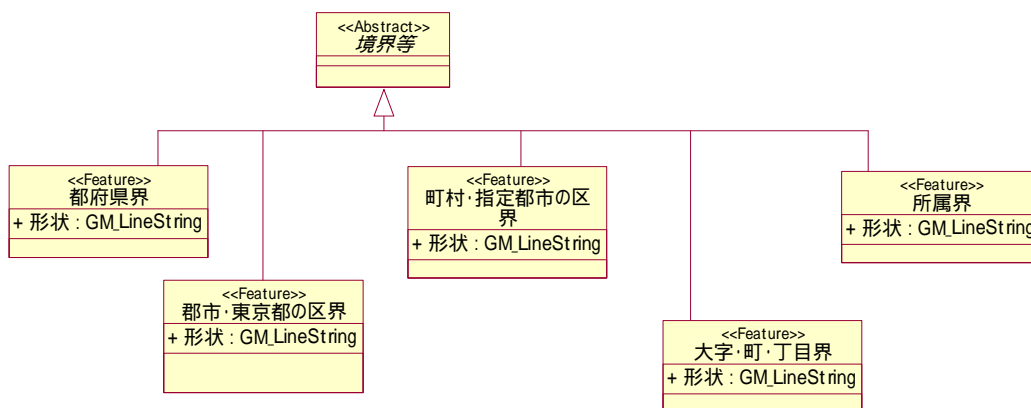
4.2. 応用スキーマおよび応用スキーマ記述

大縮尺基図データパッケージ

境界等

属性 :

関連役割 :



都府県界

国と市町村の中間に位する広域地方公共団体の境界。

上位クラス : 境界等

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

郡市・東京都の区界

【郡】

地方自治法第259条に定められる郡の境界。

参考 :

都道府県の下位区分の一つで、町・村を包括する区画。

1878年（明治11）府・県の下行政区画とされ、1890年の郡制によって地方自治体としての権能が明確になったが、1923年（大正12）廃止。以後、地理的区画となった（大辞林、地方自治法第259条）

【市】

地方自治法第8条に定められる市の境界。

参考 :

普通地方公共団体である市。

市となるべき普通地方公共団体は、左に掲げる要件を具備していなければならない。

1. 人口5万以上を有すること。
2. 当該普通地方公共団体の中心の市街地を形成している区域内に在る戸数が、全戸数の6割以上であること。
3. 商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が、全人口の6割以上であること。
4. 前各号に定めるものの外、当該都道府県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件を具えていること。（地方自治法第8条）

【東京都の区】

地方自治法第281条に定められる東京都の区の境界。

参考：

都の区は、これを特別区という。《改正》平10法54

2 特別区は、法律又はこれに基づく政令により都が処理することとされているものを除き、地域における事務並びにその他の事務で法律又はこれに基づく政令により市が処理することとされるもの及び法律又はこれに基づく政令により特別区が処理することとされるものを処理する。《改正》平11法087

3 第2条第4項の規定は、特別区について準用する。《改正》平10法54（都と特別区との役割分担の原則）
（地方自治法第281条）

上位クラス : 境界等

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

町村・指定都市の区界

【町】

地方自治法第1条の3に定められる町の境界。

参考：

地方公共団体の一。市と村の中間に位し、都道府県に属する。まち。（大辞林、地方自治法第1条の3）

【村】

地方自治法第1条の3に定められる村の境界。

参考：

地方公共団体たる村。（大辞林、地方自治法第1条の3）

【指定都市の区】

地方自治法第252条の20に定められる指定都市の区の境界。

参考：

地方自治法において設けられた行政上の単位となる地域。事務処理のための便宜的な行政単位である行政区。（大辞林、地方自治法第252条の20）

上位クラス : 境界等

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

大字・町・丁目界

住居表示に関する法律第二条一に定められる大字・町（丁目）の境界。

参考：

市町村内の町又は字。（住居表示に関する法律第二条一）

上位クラス : 境界等

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

所属界

島等で所属を示す必要のある場合で、それぞれの所属が読図できる程度に表示する。

上位クラス : 境界等

属性 :

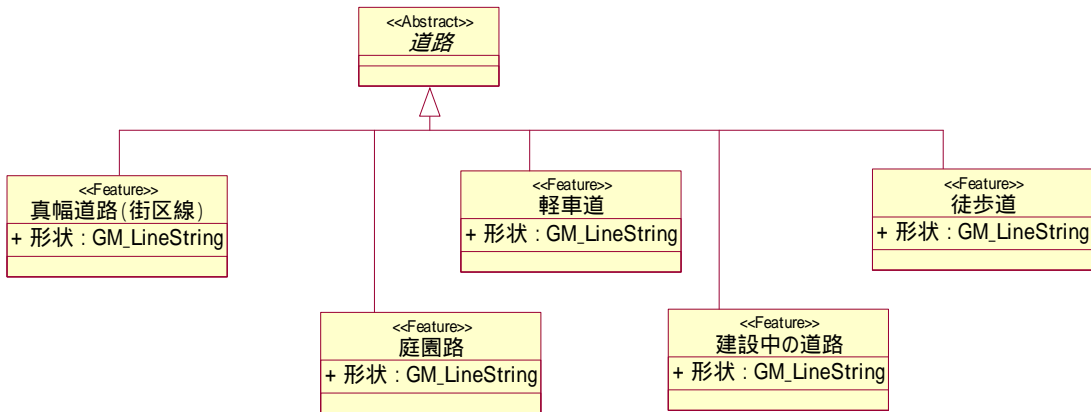
形状 : GM_LineString

関連役割 :

道路

属性 :

関連役割 :



真幅道路(街区線)

幅員(路肩から路肩)が1.0m以上の道路。

橋や高架、あるいは袋小路や敷地入り口等で間断される箇所以外は一要素として作成し、橋や高架等とは座標一致で連続し、袋小路や敷地入り口等は間断区分を設定して座標一致で連続させる。

上位クラス : 道路

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

軽車道

5千分の1国土基本図において、幅員1.0m以上2.0m未満の道路をいい、長さが図上1.0cm未満のものは省略することができる。

上位クラス : 道路

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

歩道

幅員1.0m未満の道路。

上位クラス : 道路

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

庭園路

公園、住宅地等で自動車の通行を規制している道路及び工場等特定の敷地内の道路で、幅員が1.0m以上の道路の境界。

上位クラス : 道路

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

建設中の道路

現地調査時に建設中であって、完成までに1年以上を要する真幅道路の境界。

上位クラス : 道路

属性 :

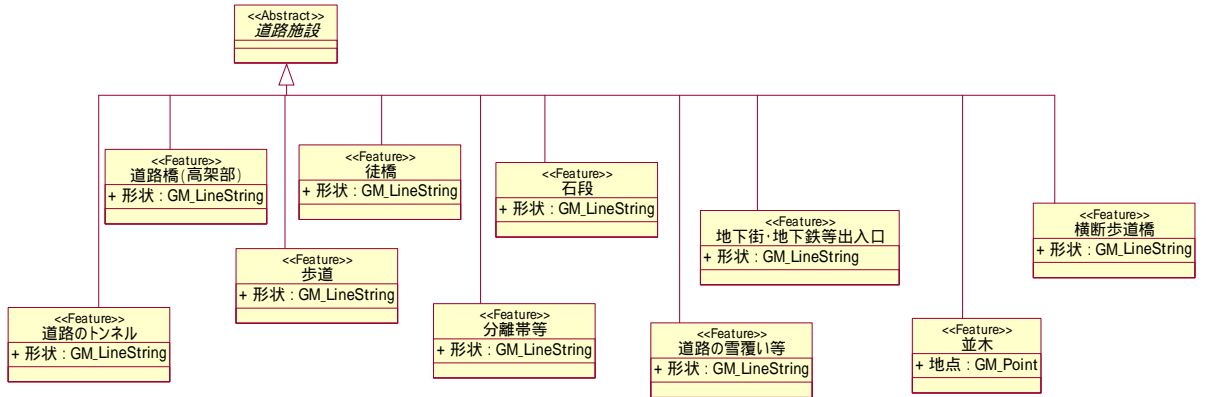
形状 : GM_LineString

関連役割 :

道路施設

属性 :

関連役割 :



道路橋（高架部）

橋床部の長さが2.5m以上で幅員が1.0m以上の道路橋（高架橋含む）の境界。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

徒橋

幅員が1.0m未満の道路橋の中心線。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

横断歩道橋

車道又は鉄道を横断する歩行者を、車道面又は鉄道面より上方に分離した立体横断施設の境界。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

歩道

幅員が1.5m以上の歩道の境界。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

石段

延長がおおむね5.0m以上の石段の境界。
ここでの石段とは、幅員が1.25m以上のものを意味する。
競技場等で屋根のない階段状の観覧席も含まれる。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

地下街・地下鉄等出入口

地下街又は地下鉄の出入口の境界。ただし、建物の内部にある地下街又は地下鉄の出入口は取得しない。

参考 :

【地下街】

公共の用に供される地下歩道（地下駅の改札口外の通路、コンコースを含む）とその地下道に面して設けられる店舗、事務所、その他これに類する施設（地下駐車場などを含む）が一体となった地下施設。

【地下鉄】

都市内において都市高速鉄道の一翼をになう鉄道で、地上交通との交差を避けるため、主要な部分が地下を走る鉄道。

（参考：道路用語辞典）

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

道路のトンネル

道路のトンネルの出入口。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

分離帯等

道路の分離帯及びロータリーの中央島等の境界。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

道路の雪覆い等

雪崩又は落石等を防ぐために道路上に設置された施設のうち、延長が5.0m以上の施設の境界。

上位クラス : 道路施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

並木

道路等に沿って整然と植樹された樹木等をいう。

上位クラス : 道路施設

属性 :

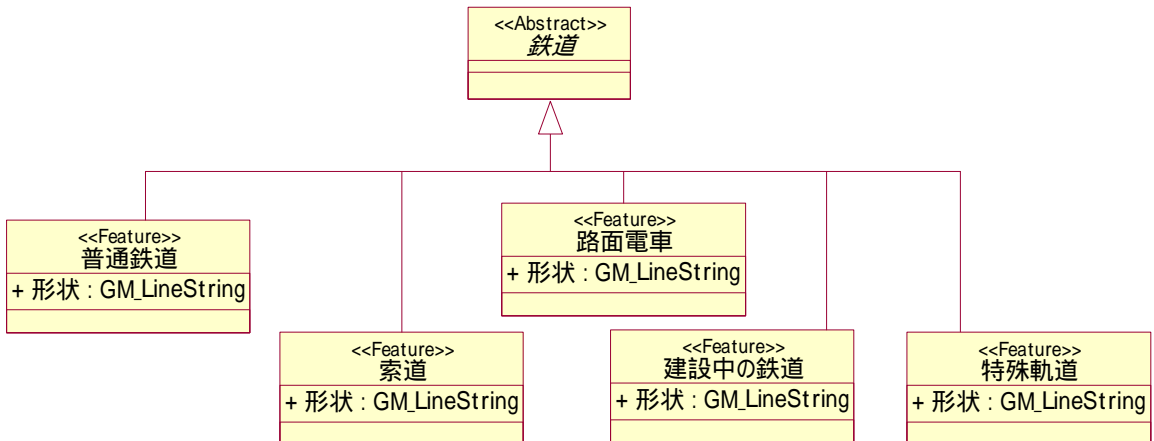
地点 : GM_Point

関連役割 :

鉄道

属性 :

関連役割 :



普通鉄道

鉄道事業法又は軌道法に基づいて運行されている鉄道。

上位クラス : 鉄道

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

路面電車

道路上に線路を敷設した鉄道。主として路面上から直接乗り降りできる車両が運行される鉄道。

上位クラス : 鉄道

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

特殊軌道

モノレール、鋼索鉄道、普通鉄道と接続しない工場等特定の地区内の軌道及び採鉱(石)地と工場等を結ぶ専用軌道。

上位クラス : 鉄道

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

索道

空中ケーブル、スキーリフト、ベルトコンベヤー及びこれらに類するもののうち、長さが50m以上で恒久的なもの。

上位クラス : 鉄道

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

建設中の鉄道

軌道等の施設が現に建設中で、その経路が明らかなものの鉄道敷の境界。

上位クラス : 鉄道

属性 :

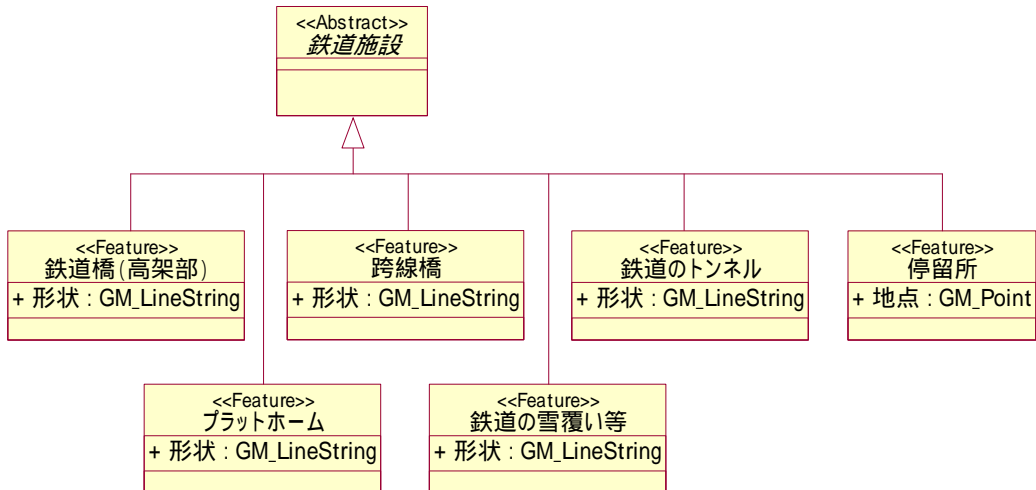
形状 : GM_LineString

関連役割 :

鉄道施設

属性 :

関連役割 :



鉄道橋（高架部）

鉄道線路が、河川・道路、他の鉄道線路などを横断する場合に架設される橋梁（高架部含む）の境界。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

跨線橋

鉄道との平面交差を避けるために架けられた陸橋のうち、駅構内の橋の境界。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

鉄道のトンネル

普通鉄道及び特殊軌道のトンネルの出入口。

建設中のトンネルについては、出入口が明確な場合に取得する。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

停留所

路面の鉄道の駅の境界。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

プラットフォーム

駅で、乗降に便利のように、線路に沿って適当な高さに築いた構築物の境界。
ただし、建物内にあるプラットフォームは取得しない。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

鉄道の雪覆い等

雪崩又は落石等を防ぐために鉄道上に設置された施設のうち、長さが5.0m以上の施設の境界。

上位クラス : 鉄道施設

属性 :

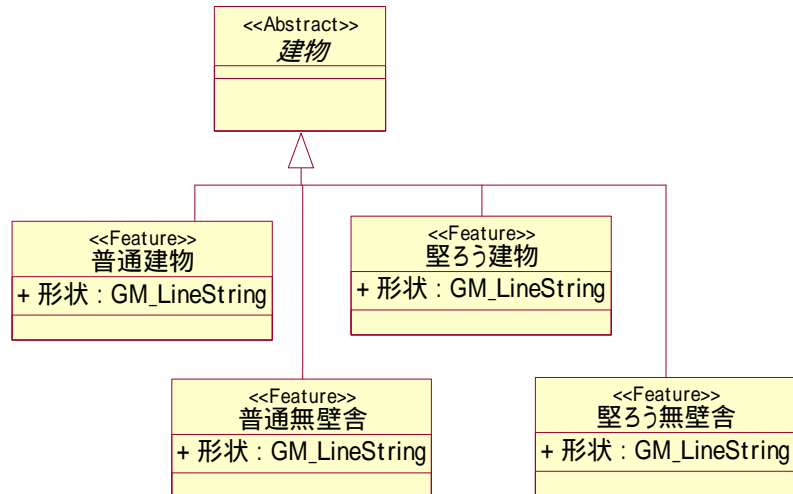
形状 : GM_LineString

関連役割 :

建物

属性 :

関連役割 :



普通建物

3階未満の建物及び3階以上の木造等で建築された建物。

上位クラス : 建物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

堅ろう建物

鉄筋コンクリート等で建築された建物をいい、地上3階以上又は3階相当以上の高さのもの。

上位クラス : 建物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

普通無壁舎

側壁のない建物、温室及び工場内の建物類似の構築物で、3階未満のもの。

上位クラス : 建物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

堅ろう無壁舎

鉄筋コンクリート等で建築された側壁のない建物及び建物類似の構築物。

上位クラス : 建物

属性 :

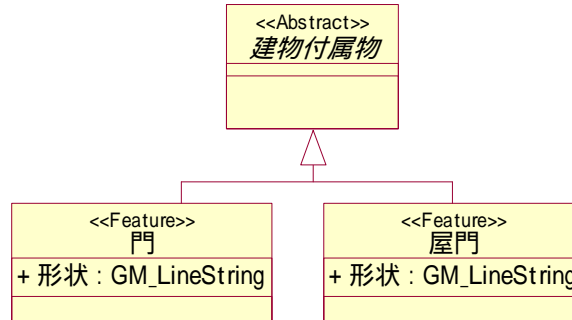
形状 : GM_LineString

関連役割 :

建物付属物

属性 :

関連役割 :



門

石、コンクリート、れんが等でできた堅ろうな門柱を有するもので、1.25m以上の大きさのもの。

上位クラス : 建物付属物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

屋門

神社・仏閣等における規模の大きな屋門。

上位クラス : 建物付属物

属性 :

形状 : GM_LineString

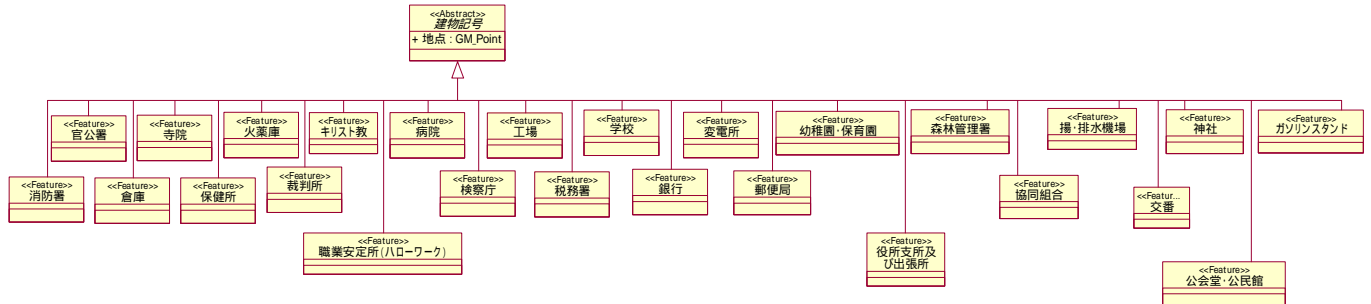
関連役割 :

建物記号

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :



官公署

外国公館及び大規模な官公署については、注記で表示するのを原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は又は小規模な官公署で特に記号がないものは、官公署の記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

裁判所

裁判所（同支部を含む）、検察庁（同支部を含む）及び税務署（国税局を含む）は注記で表示するのを原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

検察庁

裁判所（同支部を含む）、検察庁（同支部を含む）及び税務署（国税局を含む）は注記で表示するのを原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

税務署

裁判所（同支部を含む）、検察庁（同支部を含む）及び税務署（国税局を含む）は注記で表示するのを原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

郵便局

普通郵便局、及び特定郵便局については注記で表示するのを原則とする。ただし、建物の一部にあるもの及び簡易郵便局は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

森林管理署

森林管理署（森林管理局を含む）をいう。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

交番

警察官駐在所及び派出所は、記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

消防署

- 1 消防署及びその出張所等消防器具を装備し消防署員が常時駐在する施設は、注記で表示するのを原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。
- 2 消防分団等で施設が大きいものは記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

職業安定所（ハローワーク）

注記で表示するのを原則とする。ただし、同出張所及び市街地において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

役所支所及び出張所

市・特別区・町・村・指定都市の区の役場・支所及び出張所は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

神社

- 1 神社・寺院及びキリスト教会は、注記で表示するのを原則とする。ただし、小規模なものは記号で表示する。
- 2 神道教会、神道教団等は、規模の大きなものについて注記で表示することができる。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

寺院

- 1 神社・寺院及びキリスト教会は、注記で表示するのを原則とする。ただし、小規模なものは記号で表示する。
- 2 神道教会、神道教団等は、規模の大きなものについて注記で表示することができる。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

キリスト教

- 1 神社・寺院及びキリスト教会は、注記で表示するのを原則とする。ただし、小規模なものは記号で表示する。
- 2 神道教会、神道教団等は、規模の大きなものについて注記で表示することができる。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

学校

学校教育法による学校（幼稚園、各種学校は除く）について注記で表示するのが原則とする。ただし、狭小で注記を表示することが困難な場合又は市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

幼稚園・保育園

注記で表示するのが原則とする。ただし、神社、寺院、教会等に併設されたものは記号で表示することができる。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

公会堂・公民館

規模の大きいものは注記で表示するのが原則とする。ただし、規模の小さいもの又は市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

保健所

注記で表示するのが原則とする。ただし、市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

病院

- 1 病院とは、医療法に基づく病院、規模の大きな療養所及び規模の大きい診療所をいう。
- 2 医療法に基づく病院及び規模の大きな療養所は、注記で表示することを原則とする。
- 3 前項において市街地等において重要な地物を抹消するおそれがある場合及び規模の大きい診療所は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

銀行

銀行及び信用金庫（支店を含む）に適用し、記号で表示するのを原則とする。ただし、規模が大きく必要と認められるものは注記で表示することができる。

上位クラス : 建物記号

属性 :

協同組合

共同組合（農業共同組合、漁業共同組合、林業共同組合及び酪農共同組合）は注記で表示するのを原則とする。ただし、支所・出張所は記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

倉庫

専用に使用されているものについて記号で表示するのを原則とする。大規模なものは注記する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

火薬庫

専用に使用されているものについて記号で表示するのを原則とする。大規模なものは注記する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

工場

注記で表示するのが原則とする。ただし、小規模なものは記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

変電所

- 1 注記で表示するのが原則とする。ただし、図上の送電線に接続しない小規模なものは、記号で表示する。
- 2 変電所の鉄骨部分は、その外周を送電線の記号で囲んで表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

揚・排水機場

農業用及び工業用等のために設けられたもので、規模の大きなものを記号で表示する。ただし、特に規模の大きなものは、注記で表示する。

上位クラス : 建物記号

属性 :

関連役割 :

ガソリンスタンド

ガソリンスタンド(ガススタンド等を含む)は、原則としてすべて記号で表示する。

上位クラス : 建物記号

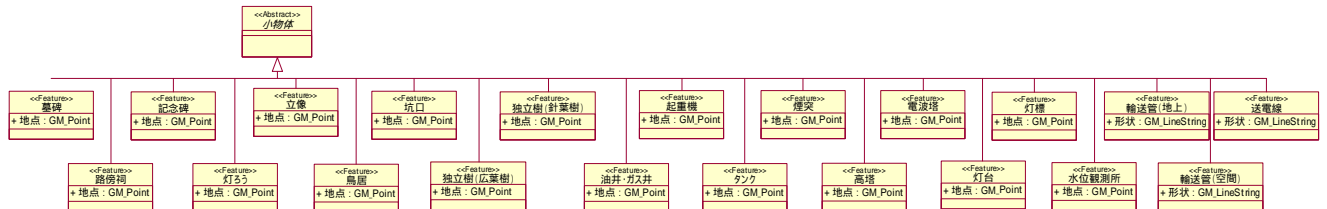
属性 :

関連役割 :

小物体

属性 :

関連役割 :



墓碑

死者の氏名、戒名、没年月日、事績などを彫りこんで、墓標として立てる石。

(参考: 広辞苑第五版)

独立して1個又は数個が存在し、墓地として取得できない場合に墓碑として取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

記念碑

ある物事を記念し、後世に伝えるために建てた碑。

(参考: 広辞苑第五版)

規模が大きなものを取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

立像

立っている姿の像。

(参考: 広辞苑第五版)

規模が大きいのものを取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

路傍祠

路傍にある地蔵、石碑又は道祖神。

特に著名なもの又は好目標となるものを取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

灯ろう

灯火をともし器具。

(参考: 大辞林第二版)

規模が大きく、主要なものについて取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

鳥居

神社の参道入口に立てて神域を示す一種の門。左右2本の柱の上に笠木をわたり、その下に柱を連結する貫を入れたもの。

(参考: 広辞苑第五版)

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

坑口

鉱坑の入口及び河川が地下に出入する部分。ただし、一条河川が道路又は鉄道と交差する部分における坑口は含まない。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

独立樹(広葉樹)

幅の広い葉をつける単独の大きな樹木又は数株の大きな樹木が集合するもの。

著名なものを取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

独立樹（針葉樹）

裸子植物で葉が針状又は鱗片状の単独の大きな樹木又は数株の大きな樹木が集合する

もの。著名なものを取得する。

（参考：広辞苑第五版）

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

油井・ガス井

石油を採取するための櫓を設けた井戸又は天然ガスを噴出する井戸のうち、現に採取中のもの。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

起重機

重量物を動力でつり上げ、上下・左右・前後に移動させる機械で、常設された規模の大きいもの。

（参考：大辞林第二版）

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

タンク

石油、ガス等のタンク。

直径が5.0m以上のものについて取得する。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

煙突

鉄板、煉瓦、コンクリートなどの空筒で、燃料の燃焼を助ける通風の役をし、また煤煙を空中に排出させる装置で、規模の大きなものを取得する。

（参考：広辞苑第五版）

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

高塔

特に高くそびえている工作物のうち、送電線の鉄塔、境界の鐘楼、展望台、独立した給水塔等記号が定められていないもの。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

電波塔

テレビ、ラジオ、無線電信等の送受信を目的に構築された塔。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

灯台

航路標識の一。沿岸航行の船舶に目に付きやすく建てられた塔状の構造物で、夜間は灯光を用いて、陸地の遠近、所在、危険箇所などを指示し、出入港船舶に港口の位置を示すもの。

(参考: 広辞苑第五版)

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

灯標

航空標識のうち、灯標、灯柱及び導標について、固定された規模の大きなもの。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

水位観測所

主要な水位観測所。ただし、ポール等の量水標は含まれない。

上位クラス : 小物体

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

輸送管 (地上)

水、油、ガス、ガソリン等を輸送するもので、その直径が50cm以上、長さが5.0m以上のもののうち地上にあるもの。

上位クラス : 小物体

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

輸送管 (空間)

水、油、ガス、ガソリン等を輸送するもので、その直径が50cm以上、長さがおおむね5.0m以上のもののうち空間(地上1.0m以上を標準とする)にあるもの。

上位クラス : 小物体

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

送電線

おおむね20kV以上の高圧電流を送電するもの。ただし、地中にある部分は取得しない。

上位クラス : 小物体

属性 :

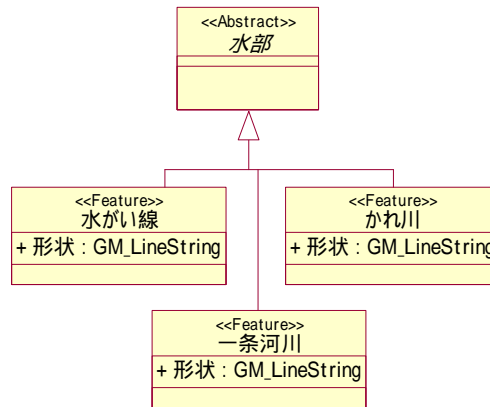
形状 : GM_LineString

関連役割 :

水部

属性 :

関連役割 :



水がい線（河川）（湖池等）（海岸線）

河川、湖池等の水がい線及び海岸線。

ここでの河川とは、平水時において流水部の幅が1.0m以上の河川とする。ただし、主要な河川等にあっては、流水部の幅が1.0m未満であっても河川とする。ここでの湖池等とは、湖、池、沼等（人工的に貯水したものを含む）を指し、5.0m平方以上の湖池等とする。

上位クラス : 水部

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

一条河川

流水部の幅が0.5m以上、1.0m未満の河川。

上位クラス : 水部

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

かれ川

通常水の流れていない川。断続している河川の流路を明示する場合に取得する。

ただし、この地物はオプションである。

上位クラス : 水部

属性 :

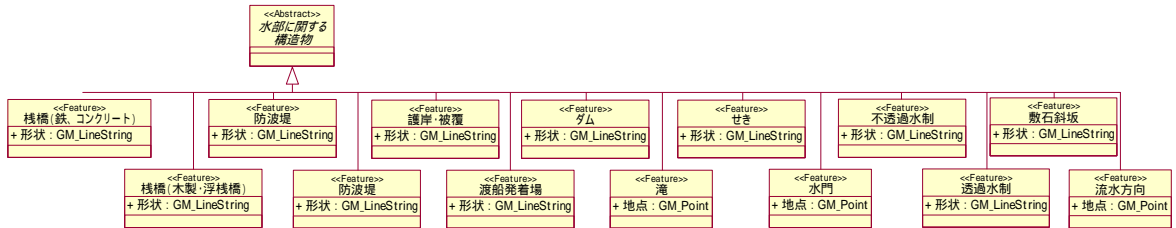
形状 : GM_LineString

関連役割 :

水部に関する構造物

属性 :

関連役割 :



栈橋 (鉄、コンクリート)

谷を横切って高く架けた橋のうち、鉄又はコンクリートで作られたもの。
(参考: 大辞林第二版)
ただし、この地物はオプションである。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

栈橋 (木製・浮栈橋)

谷を横切って高く架けた橋のうち、木製のもの。又は、大きな浮き箱をつなぎ並べて、栈橋としたもの。
(参考: 大辞林第二版)

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

防波堤

外海からの波を防ぎ、港湾内を穏やかに保つために海中に築造された突堤。
(参考: 大辞林第二版)

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

渡船発着場

定期的に入または車両を運搬する船舶の発着所及び遊覧船の発着所。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

ダム

洪水の調節、発電、上水道、農工業等のための各種用水の貯水を目的として設けられた工作物。砂防ダムを含む。

ただし、この地物はオプションである。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

滝

流水が急激に落下する場所。ここでは、高さが3.0m以上のものを指す。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

せき

流水の制御や河床の保護を目的として設けられた工作物又は用水の取水等のため河川を横断して設けられた工作物。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

水門

取排水、水量調節等のために設けられた工作物。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

不透水水制

流水の制御又は河岸及び海岸の洗掘防止を目的として設けられた工作物のうち、隙間のないもの。

ここでは、平水時に水面上に露出し、その長さが10.0m以上のものを指す。

ただし、この地物はオプションである。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

透過水制

流水の制御又は河岸及び海岸の洗掘防止を目的として設けられた工作物のうち、隙間のあるもの。

ここでは、平水時に水面上に露出し、その長さが10.0m以上のものを指す。

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

敷石斜坂

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

流水方向

上位クラス : 水部に関する構造物

属性 :

形状 : GM_Point

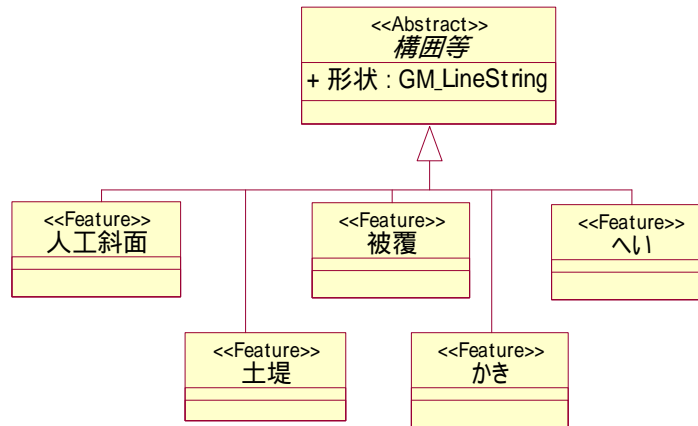
関連役割 :

構囲等

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :



人工斜面

盛土及び切土により人工的に作られた急斜面（道路、鉄道等の盛土部及び切土部、土堤、土囲、ダム、造成地の急斜面等）のうち、斜面の傾斜が2/3以上、高さが1.5m以上で、長さが25m以上のもの。

上位クラス : 構囲等

属性 :

関連役割 :

土堤

被覆のない堤防及び敷地等の周囲にある盛土。

上位クラス : 構囲等

属性 :

関連役割 :

被覆

道路、河岸、海岸等の斜面を保護するためのコンクリート、石積等の堅ろうな工作物のうち、高さが1.5m以上、長さが25m以上のもの。

上位クラス : 構囲等

属性 :

関連役割 :

かき

建物及び敷地の周辺を区画するためのトタンべい、生がき、鉄さく等の工作物のうち、高さが1.5m以上、長さが25m以上のもの。

上位クラス : 構田等

属性 :

関連役割 :

へい

建物及び敷地の周辺を区画するためのついじ及び石、コンクリート等で作られた堅ろうな工作物のうち、高さが2.0m以上、長さが100m以上のもの。

ただし、へいのうち、高さが2.0m未満、長さが100m未満のものはかきとして取得する。

上位クラス : 構田等

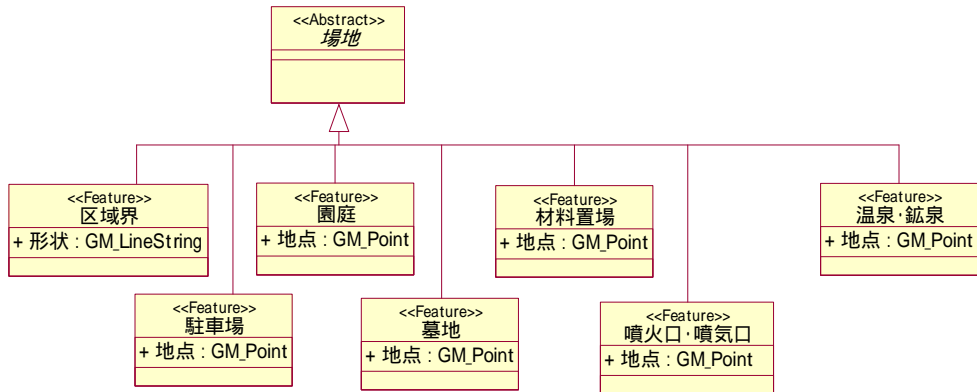
属性 :

関連役割 :

場地

属性 :

関連役割 :



区域界

場地等のうち、特に他の地区と区別する必要がある場合で、その区域が地物縁で表示できない場合に取得する区域。

上位クラス : 場地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

駐車場

一般車が利用可能なもの及び月極駐車場。
ここでは、10.0m×10.0m以上のものを指す。
公共施設、工場及び店舗等の敷地内にある駐車場は含まれない。

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

園庭

庭園、公園、宅地、道路の分離帯及び工場等の周辺にある観賞あるいは隠ぺいのため栽培する灌木の集合。

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

墓地

死者を葬って墓を建てる場所。
(参考：広辞苑第五版)

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

材料置場

木材、石材、鉱石等を集積するための土地又は水面。
ここでは、5.0m×5.0m以上のものを指す。
ただし、工場等の敷地内にある材料置場は含まれない。

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

噴火口・噴気口

現在、噴火又は噴気している噴火口及び噴気口。

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

温泉・鉱泉

温泉法に基づく温泉及び鉱泉。

上位クラス : 場地

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

さとうきび畑

さとうきびを栽培している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

パイナップル畑

パイナップルを栽培している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

桑畑

桑を栽培している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

茶畑

茶を栽培している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

果樹園

果樹を栽培している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

その他の樹木畑

桐、はげ、こうぞ、庭木等を栽培している土地及び苗木畑。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

芝地

芝を植えて管理している庭園、ゴルフ場及び運動場等。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

広葉樹林

樹高2.0m以上の広葉樹が密生している地域。

ただし、植林地の場合は2.0m未満でも含まれる。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

針葉樹林

樹高2.0m以上の針葉樹が密生している地域。

ただし、植林地の場合は2.0m未満でも含まれる。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

関連役割 :

竹林

樹高2.0m以上の竹林が密生している地域。

ただし、植林地の場合は2.0m未満でも含まれる。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

荒地

裸地、雑草地等の地域。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

はい松地

はい松又はわい性松の密生している地域。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

しの地(笹地)

しの又は笹の密生している地域。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

やし科樹林

やし科、へご科、たこのき科等の植物が密生している地域。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

湿地

常時水を含み、土地が軟弱で湿地性の植物が生育している土地。

上位クラス : 植生

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

砂れき地

砂又はれきで覆われている土地。

上位クラス : 植生

属性 :

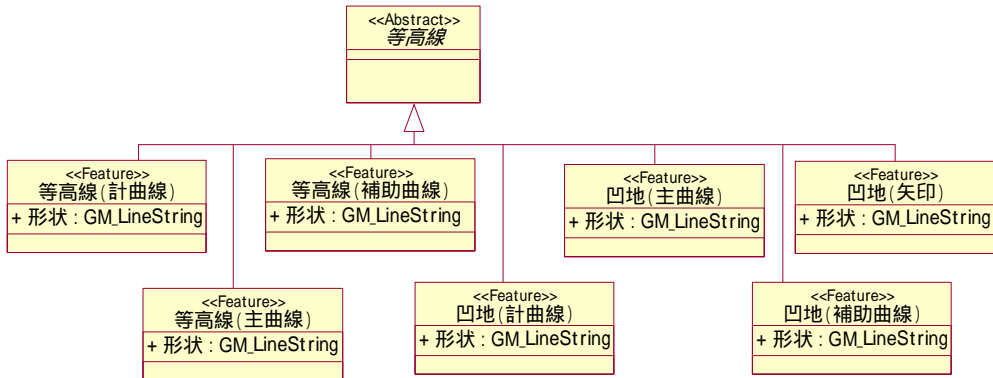
地点 : GM_Point

関連役割 :

等高線

属性 :

関連役割 :



等高線 (計曲線)

標高0mの主曲線及びこれより起算して5本目(10m)ごとの主曲線。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

等高線 (主曲線)

平均海面(0m)から起算して2mごとに標高の等しい点の軌跡として描かれる曲線。

ただし等高線(計曲線)は除く。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

等高線 (補助曲線)

緩傾斜地又は複雑な地形を示す地域等で主曲線だけでは地形を適切に表現できない部分について1m間隔に表示する等高線。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

凹地 (計曲線)

人工構築物との合成で生じた以外の凹地に表記する計曲線。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

凹地（主曲線）

人工構築物との合成で生じた以外の凹地に表記する主曲線。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

凹地（補助曲線）

人工構築物との合成で生じた以外の凹地に表記する補助曲線。

上位クラス : 等高線

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

凹地（矢印）

上位クラス : 等高線

属性 :

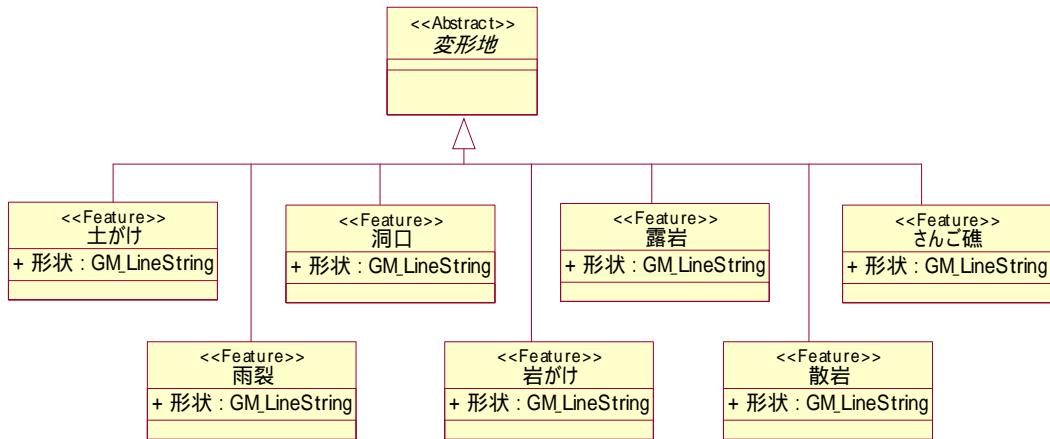
地点 : GM_LineString

関連役割 :

変形地

属性 :

関連役割 :



土がけ

土砂の崩壊等によって自然にできた急斜面。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

雨裂

表土が雨水によって流出した状態。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

洞口

自然に形成された穴。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

岩がけ

岩でできた急斜面。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

露岩

一部を地表に露出する岩石。
河岸及び海岸等で露出している岩石を含む。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

散岩

地表に散在する岩石。岩礁を含む。

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

関連役割 :

さんご礁

サンゴ虫の遺骸や分泌物から成る石灰質の岩礁。
(参考: 大辞林第二版)

上位クラス : 変形地

属性 :

形状 : GM_LineString

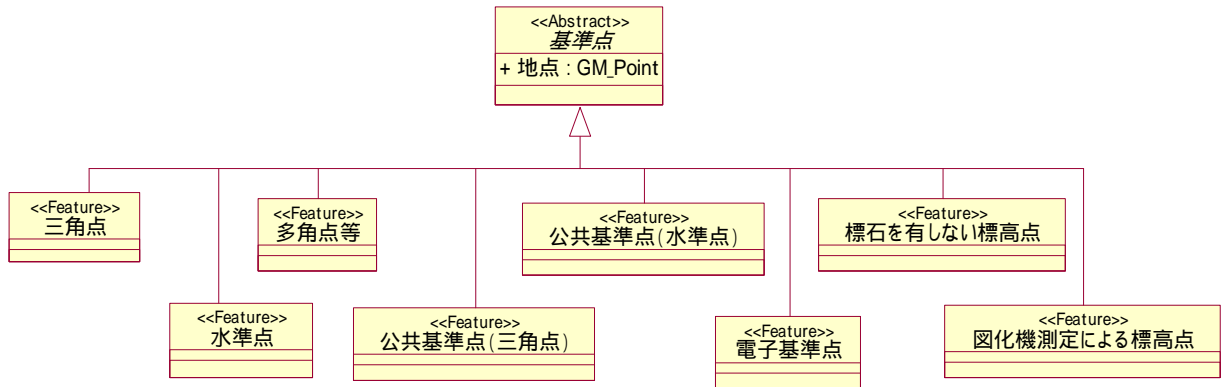
関連役割 :

基準点

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :



三角点

基本測量により設置された三角点。

ただし、盤石の亡失したもの、高架部下のものは含まれない。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

水準点

基本測量により設置された水準点。

ただし、標石の亡失したもの、トンネル内、高架部下のものは含まれない。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

多角点等

基本測量により設置された基準点のうち、三角点及び水準点以外のもの。

ただし、標石の亡失したもの、トンネル内、高架部下のものは含まれない。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

公共基準点(三角点)

公共測量による1級基準点測量及び2級基準点測量により設置された基準点。

ただし、盤石の亡失したもの、高架部下のものは含まれない。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

公共基準点（水準点）

公共測量による1級基準点測量及び2級基準点測量により設置された水準点。
ただし、標石の亡失したもの、トンネル内、高架部下のものは含まれない。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

電子基準点

基本測量により設置された電子基準点。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

標石を有しない標高点

公共測量による3級及び4級基準点（三角点及び水準点）、標定点測量（簡易水準測量を含む）により平面位置及び標高を所定の精度で測定した点。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

関連役割 :

図化機測定による標高点

図化機測定による標高点。

上位クラス : 基準点

属性 :

関連役割 :

(注記) 小字・丁目

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 通り

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 道路の路線名

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 坂・峠・道路施設・インターチェンジ等

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 鉄道の路線名

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 駅、操車場、信号所、鉄道施設

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 橋

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)トンネル

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)独立又は集団の建物

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)小物体

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)水部

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)水部に関する構造物

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)場地

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記)植生

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 山地

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 基準点

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

(注記) 説明注記

上位クラス : 注記

属性 :

関連役割 :

指示点

<<Feature>> 指示点
+ 地点 : GM_Point

建物記号、注記を表示する場合に、その対象物の内部に表示ができず対象とするものが特定できない場合に表示する。

上位クラス :

属性 :

地点 : GM_Point

関連役割 :

地番図家屋図データパッケージ

固定資産データ集合パッケージ

固定資産データ集合

属性 :

関連役割 :

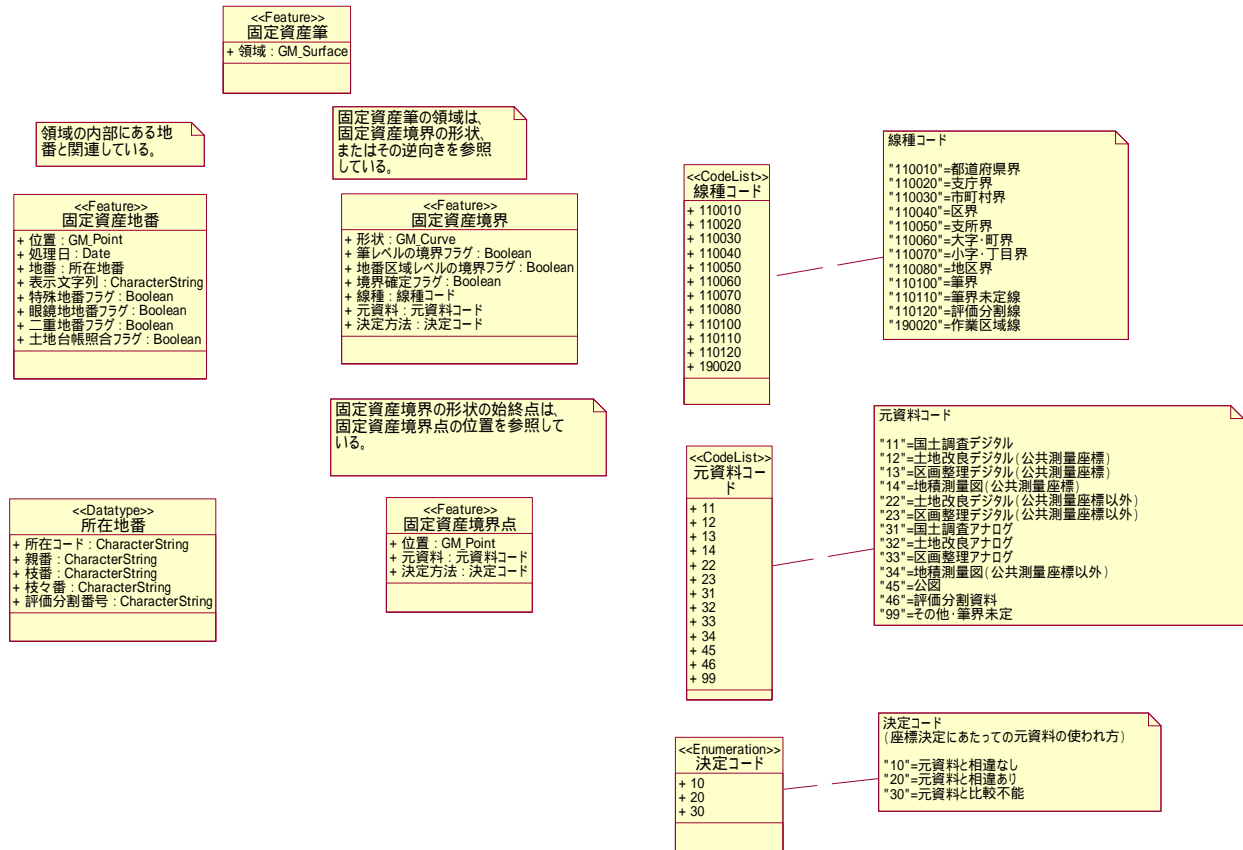
要素 [1..n] : 固定資産地物

固定資産地物

属性 :

関連役割 :

固定資産土地パッケージ



固定資産境界点

土地の境界確定点。または境界仮想位置を示す。

属性 :

位置 : GM_Point

境界杭や仮想境界点などの位置。

元資料 : 元資料コード

位置を決定するにあたって参考にした資料の種類。

【定義域】

- 11 : 国土調査デジタル
- 12 : 土地改良デジタル (公共測量座標)
- 13 : 区画整理デジタル (公共測量座標)
- 14 : 地積測量図 (公共測量座標)
- 22 : 土地改良デジタル (公共測量座標以外)
- 23 : 区画整理デジタル (公共測量座標以外)
- 31 : 国土調査アナログ
- 32 : 土地改良アナログ
- 33 : 区画整理アナログ
- 34 : 地積測量図 (公共測量座標以外)
- 45 : 公図
- 46 : 評価分割資料

99：その他・筆界未定

決定方法：決定コード

元資料と、決定された位置の比較。

【定義域】

10：元資料と相違なし。

20：元資料と相違あり。

(図面をマップデジタイズしたため読み取り誤差がある場合、複数の資料の間で相違があり誤差を配分した場合など)

30：元資料と比較不能

関連役割：

固定資産境界

評価分割線を含んだ筆界線。

属性：

形状：GM_Curve

境界点を結ぶ2点からなる線。

筆レベルの境界フラグ：Boolean

固定資産筆の領域を構成する線として使われるか否かを示す値。

【定義域】

True：使われる

False：使われない

地番区域レベルの境界フラグ：Boolean

地番地域の領域を構成する線として使われるか否かを示す値。

【定義域】

True：使われる

False：使われない

境界確定フラグ：Boolean

境界線の位置が確定しているか否かを示す値。

【定義域】

True：確定している

False：確定していない

線種：線種コード

境界の種類。

【定義域】

110010：都道府県界

110020：支庁界

110030：市町村界

110040：区界

110050：支所界

110060：大字・町界

110070：小字・丁目界

110080：地区界

110100：筆界

110110：筆界未定線

110120：評価分割線

190020：作業区域線

元資料：元資料コード

位置を決定するにあたって参考にした資料の種類別。

【定義域】

- 11：国土調査デジタル
- 12：土地改良デジタル（公共測量座標）
- 13：区画整理デジタル（公共測量座標）
- 14：地積測量図（公共測量座標）
- 22：土地改良デジタル（公共測量座標以外）
- 23：区画整理デジタル（公共測量座標以外）
- 31：国土調査アナログ
- 32：土地改良アナログ
- 33：区画整理アナログ
- 34：地積測量図（公共測量座標以外）
- 45：公図
- 46：評価分割資料
- 99：その他・筆界未定

決定方法：決定コード

元資料と決定された位置の比較。

【定義域】

- 10：元資料と相違なし
- 20：元資料と相違あり
- 30：元資料と比較不能

関連役割：

固定資産筆

境界線で区画される土地。固定資産において基本的な評価単位となる。

属性：

領域：GM_Surface

区画された土地の領域。

関連役割：

固定資産地番

土地を評価し課税する単位。

属性：

位置：GM_Point

対応する土地の領域内のうちであり、評価用筆との関係を示す。

処理日：Date

地物インスタンスを生成した日または変更した日。

地番：所在地番

評価の最小単位を識別するための番号。

表示文字列：CharacterString

当該インスタンスを表示するときを使う文字列。

特殊地番フラグ：Boolean

地番があるか特殊な地番かを示す。

【定義域】

- True：特殊地番
- False：特殊地番でない

眼鏡地番フラグ：Boolean

眼鏡地番（連続しない複数の領域が同じ評価用地番であり、登記上1個の土地として扱われるもの）か否か。

【定義域】
True：眼鏡地番
False：眼鏡地番でない

二重地番フラグ：Boolean
二重地番（連続しない複数の領域が同じ評価用地番を持ち、眼鏡地とは明らかに異なるもの）が
否か。

【定義域】
True：二重地番
False：二重地番でない

土地台帳照合フラグ：Boolean
土地台帳と一致するかを示す値。

【定義域】
True：土地台帳と一致
False：土地台帳には存在しない

[関連役割](#)：

所在地番

土地の評価の最小単位を識別するための番号。

[属性](#)：

所在コード：CharacterString
地番区域を識別するためのコード。
地方公共団体ごとの定義による。

親番：CharacterString
地番区域内を識別するための番号もしくは特殊地番の種別を示す値。

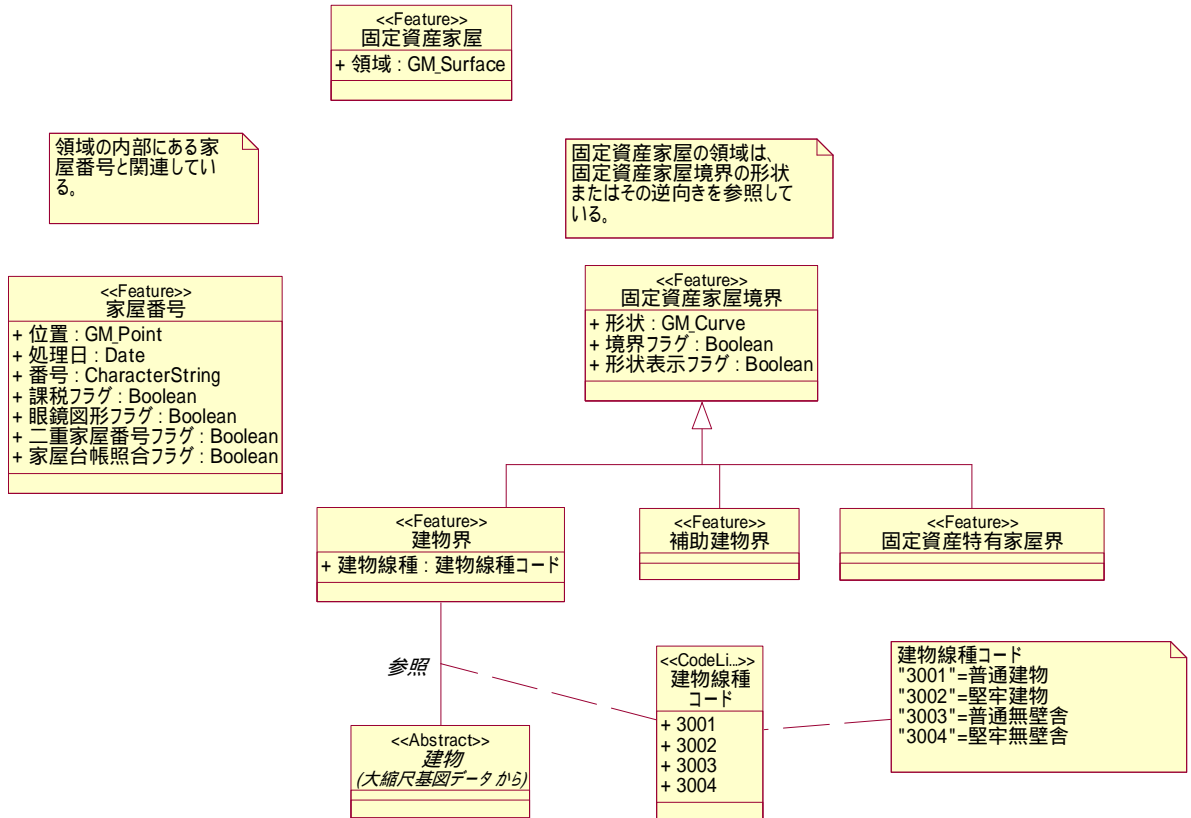
枝番：CharacterString
親番の中の区分を識別するための番号もしくは特殊地番の種別を示す値。

枝々番：CharacterString
枝番の中の区分を識別するための番号。

評価分割番号：CharacterString
一筆地を土地利用状況等で分割したとき識別するための番号。

[関連役割](#)：

固定資産家屋パッケージ



建物界

位置正確度が定義されている家屋形状であり、面積が10平方メートル以上である家屋。他のパッケージから取得し、編集することも想定されている。

上位クラス : 固定資産家屋境界

属性 :

建物線種 : 建物線種コード

建物界の種別を識別するための番号。

【定義域】

- 3001 : 普通建物
- 3002 : 堅牢建物
- 3003 : 普通無壁舎
- 3004 : 堅牢無壁舎

関連役割 :

補助建物界

位置正確度が定義されている家屋形状であるが、面積が10平方メートル未満である家屋。

上位クラス : 固定資産家屋境界

属性 :

関連役割 :

固定資産特有家屋界

位置正確度が定義されていない家屋形状であるが、家屋課税のために必要な家屋。

上位クラス : 固定資産家屋境界

属性 :

関連役割 :

固定資産家屋境界

固定資産家屋の領域を構成する線形

属性 :

形状 : GM_Curve

家屋の形状を示す線形

境界フラグ : Boolean

当該の形状が、固定資産家屋の領域として使われているか否かを示す値。

【定義域】

True : 使われている

False : 使われていない

形状表示フラグ : Boolean

画面表示や印刷時に表示対象とするか否かを示す値。

【定義域】

True : 表示する

False : 表示しない

関連役割 :

固定資産家屋

家屋評価の基本単位

属性 :

領域 : GM_Surface

家屋の形状

関連役割 :

家屋番号

属性 :

位置 : GM_Point

処理日 : Date

番号 : CharacterString

課税フラグ : Boolean

眼鏡図形フラグ : Boolean

二重家屋番号フラグ : Boolean

家屋台帳照合フラグ : Boolean

関連役割 :

デジタルオルソフォトデータパッケージ

```
<<Feature>>  
デジタルオルソフォト  
+ グリッド : JP_Grid  
+ R : Integer  
+ G : Integer  
+ B : Integer
```

グリッドの位置は画像データとともに配布されるワールドファイルの基点座標と画像解像度により相対的に表現される。

デジタルオルソフォト

四辺形の土地被覆を正射投影補正等されたカラー画像によって表現された画像情報

属性 :

グリッド : JP_Grid
R : Integer
G : Integer
B : Integer

関連役割 :

5. 参照系

5.1. 座標参照系

JGD2000, TP / 9(X, Y), H

5.2. 時間参照系

GC / JST

6. データ品質

6.1. 品質要求

【大縮尺基図データパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
完全性	過剰	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	<p>データ集合と、参照データ（公園及び行政区画の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照データと対応関係がとれない地物インスタンスがデータ集合内に存在する場合。 データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。 <p>誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100</p>	過剰なデータの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	<p>データ集合を25mメッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての25mメッシュに対する、過剰なデータを含む不良メッシュの割合（誤率）を計算する。</p> <p>25mメッシュの良不良の判定は、25mメッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、次の場合、不良メッシュとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等）と対応関係がとれない地物インスタンスが一つ以上、25mメッシュ内に存在する場合。 25mメッシュ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。 応用スキーマの地物の定義（取得基準）に適合しないデータが当該地物として作成されている場合。但し、空間データの構成上必要と判断された上で作成されているものは、過剰なデータとみなさない。 過剰なデータ（地物インスタンス）が複数の25mメッシュにまたがる場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 <p>誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100</p>	過剰なデータを含む不良な25mメッシュの割合：5%以内
		境界、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構図等、場地、植生、変形地	<ul style="list-style-type: none"> 25mメッシュ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。 応用スキーマの地物の定義（取得基準）に適合しないデータが当該地物として作成されている場合。但し、空間データの構成上必要と判断された上で作成されているものは、過剰なデータとみなさない。 過剰なデータ（地物インスタンス）が複数の25mメッシュにまたがる場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 <p>誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100</p>	過剰なデータを含む不良な25mメッシュの割合：10%以内
		等高線	<p>検査対象範囲のデータ集合内に存在する等高線の過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ計曲線を表すデータが重複して存在する場合、計曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 計曲線と計曲線の間に5本以上の主曲線が存在する場合、主曲線の過剰なデータとして、その本数（4本を越えた本数）を数える。 主曲線と主曲線の間に2本以上の補助曲線が存在する場合、補助曲線の過剰なデータとして、その本数（1本を越えた本数）を数える。 <p>誤率（％）＝（過剰なデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100</p>	等高線の過剰なデータの割合：10%以内
		地図記号、注記	<p>データ集合と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）と対応関係がとれない余分な記号及び注記がデータ集合内に存在する場合。 地物インスタンスとの関連をもたない記号及び注記が、データ集合内に存在する場合。 <p>誤率（％）＝（過剰なデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100</p>	記号及び注記の過剰なデータの割合：10%以内

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
完全性	漏れ	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	データ集合と、参照データ（公園及び行政区の元資料、座標成果）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。 誤率（％）＝（漏れのデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100	データの漏れの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	データ集合を25mメッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての25mメッシュに対する、データの漏れを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25mメッシュの良不良の判定は、25mメッシュごとにデータ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、次の場合、不良なメッシュとする。 ・ 参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、25mメッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わらず漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 複数の25mメッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100	データの漏れを含む不良な25mメッシュの割合：5%以内
		境界、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、変形地	・ 参照データ（空中写真、現地調査資料等の元資料）と対応すべき地物インスタンスが、25mメッシュ内に存在しない場合。取得基準に適合するデータの欠落は、理由の如何に関わらず漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 複数の25mメッシュにまたがるデータ（地物インスタンス）が漏れている場合は、関係する25mメッシュすべてを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100	データの漏れを含む不良な25mメッシュの割合：10%以内
		等高線	等高線検査対象範囲のデータ集合から漏れている等高線データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 標高差±20mの等高線の間、計曲線が存在していない場合。 ・ 計曲線と計曲線の間3本以下の主曲線しか存在しない場合、主曲線データの漏れとして、その本数を数える（例えば3本であればエラーは1つ、2本であればエラーは2つとなる。）。 誤率（％）＝（漏れのデータ数／本来作成すべき等高線のデータ数）×100	等高線データの漏れの割合：10%以内
		地図記号、注記	地図記号、注記データ集合と、参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）に含まれる記号及び注記データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 参照データ（監督員が真とみなす入力基図又は記号・注記の一覧等）とする記号及び注記がデータ集合内に存在しない場合。 誤率（％）＝（漏れのデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100	記号及び注記データの漏れの割合：10%以内
		図化機測定による標高点	検査対象範囲のデータ集合から漏れている図化機測定による標高点データ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 250m×250m（図上10cm×10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点データが6点に満たない場合、漏れのデータとして、その個数を数える。 ・ 250m×250m（図上10cm×10cm）に分割したメッシュ内に含まれる図化機測定による標高点、基準点及び等高線数値の注記を合わせた個数が10点に満たない場合、図化機測定による標高点の漏れとして、その個数を数える。 誤率（％）＝（漏れのデータ数／検査対象範囲に存在すべき図化機測定による標高点のデータ数）×100	図化機測定による標高点データの漏れの割合：10%以内
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	データ集合の書式（フォーマット）が、規定の書式（拡張デジタルマッピング実装規約（案）改訂版「デジタルマッピングデータファイル仕様」）に適合していることを確認する。 適合していない場合はエラーとする。	誤率：0%
	位相一貫性	データ集合全体	連続するデータは、座標一致で連続しなければならない。 線の中に別の線データが接する場合には、別の線データの端点座標は、接する線の線上になければならない。	誤率：0%

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
論理一貫性	位相一貫性	真幅道路	街区面が構成できるように、袋小路や施設入り口等の表現上、開放部においても当該取得分類に相談区分を設定して取得するものとする。	誤率：0%
		河川（水涯線）	道路橋等の下を通過する箇所は、間断区分を設定して取得するものとする。但し、出入り口の調査が困難な水路等はこの限りではない。	出入り口の調査が困難な水路等以外の誤率：0%
		崩土、壁岩、人工斜面、被覆	崩土、壁岩、人工斜面、被覆等の射影をもつデータは、斜影部の上端と斜影部の下端の支店終点座標が座標一致で接続されていなければならない。	誤率：0%
		データタイプ（面）	データタイプが面として規定されているデータにおいて、図郭や作業範囲等で分断される場合は、線形式で取得するものとする。図郭で分断される場合は、データの始終点座標は図郭線に一致するものとし、分断された隣接図郭のデータの始終点座標とも一致しなければならない。	誤率：0%
		面、線、円、円弧データにおいて座標列方向が規定されたもの	人工斜面や被覆（大）等1つの記号を得るために上端線と下端線のデータを取得する必要があるものについては、データ取得方向に規則性を持ち、上端線は標高の低い方を右に見た形で、下端線は標高の高い方を右に見た形でデータを取得する。 滝、せき、被覆（小）、さんご礁、露岩等、データの取得方向に対して記号の形が対称でない記号については、データ取得方向に規則性を持ち、標高の高い方向又は上流方向、陸方向を左に見た形でデータを取得する。 橋、防護さく等は、修飾する部品記号を右に見た形でデータを取得する。但し、中庭のような内包面となるデータは、対象物を左に見た形でデータを取得する。	誤率：0%
位置正確度	絶対正確度	基準点 （図化機測定による標高点を除く） 座標成果がある地物	データ集合内の位置の座標と、より正確度の高い参照データの座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0とする）。但し、遮蔽部分（不可視のデータ）は検査対象としない。 水平位置の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum (xi - Xi)^2 + (yi - Yi)^2}$ xi：データ集合内の検査対象データの位置のX座標 yi：データ集合内の検査対象データの位置のY座標 Xi：より正確度の高いデータの位置のX座標 Yi：より正確度の高いデータの位置のY座標 n：サンプル数	座標成果との標準偏差： 0m[単位：メートル]
		鉄道、鉄道施設、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、変形地 （レベル2500） 道路、道路施設、建物 （レベル1000）	標高の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum (hi - Hi)^2}$ hi：データ集合内の検査対象のデータの標高値 Hi：より正確度の高いデータの標高値	水平位置の標準偏差： 1.75m以内[単位：メートル] （レベル2500）
		道路、道路施設、建物 （レベル1000）		水平位置の標準偏差： 0.7m以内[単位：メートル] （レベル1000）
		等高線		標高の標準偏差：1.00m以内 [単位：メートル]
		図化機測定による標高点		標高の標準偏差：0.66m以内 [単位：メートル]
		行政界		図上の水平位置の標準偏差： 0.3mm以内[単位：ミリメートル] 但し、図郭四隅の残存誤差が 0.2mm以内であること。
		既成図数値化によって作成する地物（上記の地物であっても、既成図数値化によって作成する場合は、この品質要求を適用する。）		

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
主題正確度	分類の正しさ	行政界、基準点	データ集合と、参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）との比較を行い、地物型が正しく特定されていないデータ数を数え、その割合（誤率）を計算する。 誤率（％）＝（地物型が正しく特定されていないデータ数／参照データに含まれるデータの総数）×100	地物型の分類のエラーの割合：0%
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	データ集合を25mメッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての25mメッシュに対する、分類の正しさのエラーを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25mメッシュの良不良の判定は、検査対象となる25mメッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、入力基図、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行う。25mメッシュ内に地物型が正しく特定されていないデータが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。 誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100	地物型の分類のエラーを含む不良な25mメッシュの割合：5%以内
		道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点		地物型の分類のエラーを含む不良な25mメッシュの割合：10%以内
非定量的主題属性の正しさ	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	データ集合と、参照データ（空中写真、公園及び行政区域の元資料、座標成果等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。	非定量的な主題属性のエラーの割合：0%
		道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	データ集合を25mメッシュの区域に分割し、検査対象となるすべての25mメッシュに対する、誤った地物属性の値をもつ地物インスタンスを含む不良なメッシュの割合（誤率）を計算する。 25mメッシュの良不良の判定は、検査対象となる25mメッシュごとに、データ集合と参照データ（空中写真、現地調査資料、既成図原図等の真とみなす元資料）に含まれる個々のデータ（地物属性）同士の一対一の比較を行う。25mメッシュ内に地物属性にエラーをもつ地物インスタンスが一つでも存在すれば、そのメッシュを不良と判定する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“可視性”の値が正しくない場合。 ・ 地物属性“種別”の値が正しくない場合。 誤率（％）＝（不良な25mメッシュ数／検査した25mメッシュの総数）×100	非定量的な主題属性のエラーを含む25mメッシュの割合：10%以内
		注記	データ集合と、参照データ（既成図、現地調査資料等の真とみなす資料）に含まれる注記データの一対一の比較を行い、データ集合内に存在する注記データ（地図情報レベル2500注記インスタンス）のエラーの割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・ 地物属性“文字列”の値の綴りが正しくない場合。但し、当用漢字外の文字は、監督員が認める場合、代替可とする。 誤率（％）＝（注記のエラー数／検査した注記の総数）×100	非定量的な主題属性のエラーの割合：10%

【固定資産データパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
完全性	過剰	固定資産地番-地番	土地台帳照合フラグが真であるインスタンスの集合と、土地台帳それぞれの地番を比較して過剰がないこと。	完全一致
		家屋番号-番号	家屋台帳照合フラグが真であるインスタンスの集合と、家屋台帳それぞれの番号を比較して過剰がないこと。	完全一致
	漏れ	固定資産筆-領域	固定資産地番の位置が領域内部に存在すること。	完全一致
		固定資産地番-地番	土地台帳照合フラグが真であるインスタンスの集合と、土地台帳それぞれの地番を比較して過剰がないこと。	完全一致
		家屋番号-番号	家屋台帳照合フラグが真であるインスタンスの集合と、家屋台帳それぞれの番号を比較して過剰がないこと。	完全一致
論理一貫性	領域一貫性	固定資産境界点-元資料	元資料コードの値が定義域内になること。	誤りが0件であること。
		固定資産境界点-決定方法	決定コードの値が定義域内にあること。	誤りが0件であること。
		固定資産境界点-位置	仕様に示す空間範囲内にあること。	誤りが0件であること。
		固定資産境界-線種	線種コードの値が定義域内にあること。	完全一致
		建物界-建物線種	建物線種コードの値が定義域内にあること。	誤りが0件であること。
		固定資産家屋境界-境界フラグ	真か偽であること。	完全一致
		固定資産家屋境界-表示フラグ	真か偽であること。	完全一致
		家屋番号-眼鏡図形フラグ	眼鏡図形フラグが真であれば、他に同じ番号を持つデータがあること。	完全一致
		家屋番号-課税フラグと台帳照合フラグ	台帳照合フラグが真であれば、課税フラグも真であること。	完全一致
		家屋番号-課税フラグ	値が真か偽であること。	完全一致
		家屋番号-眼鏡図形フラグ	値が真か偽であること。	完全一致
		家屋番号-二重番号フラグ	値が真か偽であること。	完全一致
		家屋番号-台帳照合フラグ	値が真か偽であること。	完全一致
		家屋番号-位置	製品仕様で定める空間範囲の外側でないこと。	完全一致
		書式一貫性	固定資産境界-形状	空間スキーマどおりであること。
	固定資産家屋境界-形状		応用スキーマで定める属性が存在すること。	完全一致
	固定資産家屋		応用スキーマで定める属性が存在すること。	完全一致
	家屋番号		応用スキーマで定める属性が存在すること。	
	位相一貫性	固定資産境界点-位置	境界点の重複がないこと。	同一座標なし
		固定資産境界-形状	境界形状の交差や重複がないこと。	完全一致
			境界形状が境界点の位置を参照すること。	完全一致
		固定資産筆-領域	領域が、固定資産境界の形状を参照していること	完全一致
		固定資産家屋境界-形状	重複がないこと	完全一致
			交差がないこと	完全一致（ 地下部を表現する場合など交差していることが正しいときは別途報告）
		固定資産家屋-領域	参照している固定資産家屋境界が、「建物界」のときは、面積10m ² 以上とし、10m ² 未満は「補助建物」であること。	完全一致
			固定資産家屋境界の形状、またはその逆向きを参照していること。参照している家屋境界のフラグは真であること。	完全一致
		家屋番号-位置	評価用家屋の領域内に存在すること。	完全一致
			一つの固定資産家屋の領域に複数の位置が存在するときは、二重番号フ	完全一致

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
位置正確度	絶対または外部正確度	固定資産境界点-決定方法	ラグが真であり、その他の場合は偽であること。	完全一致
			元資料どおりであること。	
		建物界-形状	元資料と形状が相似であること。	品質評価要領を作成し、適合すること。
		補助建物界-形状	総務省の「共用空間データ基本仕様書」と同様。	
主題正確度	非定量的属性正確度	固定資産地番-地番	国土地理院の「公共測量作業規程」地図情報レベル1000と同様。	完全一致
			表示文字列が地番を正しく行減すること。	
	定性的属性正確度	固定資産筆の領域に対して正しい地番であること。	品質評価要領を作成し、適合すること。	
		家屋番号-番号	元資料と比較して位置と番号の組み合わせが正しいこと。	別途品質評価マニュアルを作成する。

【デジタルオルソフォトデータパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			定義	適合品質水準
位置正確度	絶対正確度	画像データ単位	デジタルステレオ図化機等を使用して計測された水平座標とデジタルオルソ上で単画像計測された水平座標との誤差の標準偏差を計算する（誤差の母平均は、0とする）。 水平位置の誤差の標準偏差 標準偏差 = $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum ((xi-Xi)^2 + (yi-Yi)^2)}$ xi：データ集合内の検査対象データの位置のX座標 yi：データ集合内の検査対象データの位置のY座標 Xi：より正確度の高いデータの位置のX座標 Yi：より正確度の高いデータの位置のY座標 n：サンプル数	水平位置の標準偏差： 2.5m以内[単位：メートル](レベル2500) 1.0m以内[単位：メートル](レベル1000)
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	データ集合の書式（フォーマット）が、規定の書式（拡張デジタルマッピング実装規約（案）改訂版「デジタルマッピングデータファイル仕様」）に適合していることを確認する。 適合していない場合はエラーとする。	誤率：0%
利用者定義	（地上分解能）	データ集合全体	データ集合の地上分解能が所定のもの以上であることを確認する。	地上分解能： 0.4m以内[単位：メートル](レベル2500) 0.2m以内[単位：メートル](レベル1000)

6.2. 評価手順

適合性の判定は、次の手順に準拠する。

【大縮尺基図データパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性	過剰	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	全数検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。 誤率 = 0% であれば“合格” 誤率 > 0% であれば“不合格”</p>
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	抜取検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625km²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m × 250mの検査単位を25m × 25mの100個の25mメッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、25mメッシュの良/不良を判定する。 25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1件以上あれば“不良” データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格” 但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合（不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25km²に満たない場合（測量区域が12.5km²未満の場合）は、必ず0.25km²（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
		境界、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、変形地		
		等高線	抜取検査	<p>適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250mのメッシュ（0.0625km²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣</p>

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性	過剰	地図記号、注記	抜取検査	<p>接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（地物インスタンス）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4つ）を検査する。</p>
完全性	漏れ	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	全数検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示する。</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>誤率 = 0% であれば“合格” 誤率 > 0% であれば“不合格”</p>
		道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	抜取検査	<p>地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</p> <p>データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。</p> <p>ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。</p> <p>無作為抽出は、250mメッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを（地物インスタンス）含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m × 250mの検査単位を25m × 25mの100 個の25mメッシュに分割し、データ品質評価尺度に基づき、25m メッシュの良/不良を判定する。</p>
		境界、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、変形地	抜取検査	<p>25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1 件以上あれば“不良”</p> <p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。</p> <p>計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>但し、一つの250m メッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合（不良な25m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。</p> <p>測量区域の2%が0.25 km²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
完全性	漏れ	等高線	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625km²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（等高線、記号又は注記）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
		地図記号、注記	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（等高線、地図記号又は注記）を表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（等高線、記号又は注記）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
		図化機測定による標高点	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、図化機測定による標高点と、基準点及び等高線数値の注記のデータを表示又は出力する。データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。</p> <p>ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。</p> <p>検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータ（図化機測定による標高点）を含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき可否を判定する。</p> <p>“適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p> <p>測量区域の2%が0.25 km²に満たない場合（測量区域が12.5km²未満の場合）は、必ず0.25km²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
		データ集合全体	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
	位相一貫性	真幅道路	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
		河川（水涯線）	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
		崩土、壁岩、人工斜面、被覆	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
		データタイプ（面）	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
論理一貫性	位相一貫性	面、線、円、円弧データにおいて座標列方向が規定されたもの	全数検査	検査プログラムによる全数検査を行う。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
位置正確度	絶対正確度	基準点 (図化機測定による標高点を除く) 座標成果がある地物	全数検査	データ品質評価尺度に基づき、適用範囲すべてのデータをサンプルとし、標準偏差を計算する。 計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 標準偏差 = 0mであれば“合格” 標準偏差 > 0mであれば“不合格”
		道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構田等、場地、植生、変形地	抜取検査	地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ(地物インスタンス)を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット(等しい条件下で作成されたデータの集まり)を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ(0.0625k m ² /メッシュ)の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2(1%)は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2(1%)は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する(適当なメッシュとなるまで繰り返す。)。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合) 250m メッシュごとに明瞭な21 辺以上(2点以上/辺)を抽出する。 抽出した位置の座標と現地(または現地とみなす資料)の点検測量成果の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル(データ集合内の検査対象の座標すべて)の誤差の標準偏差を計算する。 計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 標準偏差”であれば“合格” “適合品質水準 < 標準偏差”であれば“不合格” 但し、250mメッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合(特定の地域の標準偏差に偏りがある場合)は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25 k m ² に満たない場合(測量区域が12.5k m ² 未満の場合)は、必ず0.25k m ² (250mメッシュ4 つ)を検査する。
		道路、道路施設、建物	抜取検査	地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ(地物インスタンス)を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット(等しい条件下で作成されたデータの集まり)を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ(0.0625k m ² /メッシュ)の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2(1%)は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2(1%)は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する(適当なメッシュとなるまで繰り返す。)。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合) 250m メッシュごとに明瞭な10 点以上を抽出する。
		図化機測定による標高点	抜取検査	検査単位の1/2(1%)は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2(1%)は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する(適当なメッシュとなるまで繰り返す。)。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。 ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。(修正の場合) 250m メッシュごとに明瞭な10 点以上を抽出する。

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
				<p>抽出した位置の標高と現地の水準測量成果（または現地とみなす資料）の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” 但し、250m メッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25km²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
位置正確度	絶対正確度	行政界	抜取検査	<p>既成図の図郭四隅の残存誤差を計測する。 図郭四隅の残存誤差が0.2mm以内であれば、以降の手順に従い、地物の空間属性の誤差の標準偏差を計測する。 地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m メッシュごとに明瞭な21 辺以上（2 点以上/辺）を抽出する。 抽出した位置の図上の座標と既成図上の座標との誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、サンプル（データ集合内の検査対象の座標すべて）の誤差の標準偏差を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” 但し、250m メッシュ単位で計算した標準偏差が適合品質水準を越える場合（特定の地域の標準偏差に偏りがある場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
		既成図数値化によって作成する地物（上記の地物であっても、既成図数値化によって作成する場合は、この品質要求を適用する。）	抜取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p>
主題正確度	分類の正しさ	行政界、基準点	全数検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格”</p>

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
主題正確度	分類の正しさ	道路施設、鉄道施設、建物、水域（河川・湖池等）	採取検査	<p>地物型が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロット別に、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m×250mの検査単位を25m×25mの100 個の25mメッシュに分割し、分割したメッシュの良/不良を判定する。 25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1 件以上あれば“不良” データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格” 但し、一つの250mメッシュに適合品質水準を越える25mメッシュが存在する場合（不良な25mメッシュが特定の地域に偏って存在する場合）は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5km²未満の場合）は、必ず0.25km²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
		道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建物、建物付属物、小物体、水部、水部の構造物、構囲等、場地、植生、等高線、変形地、図化機測定による標高点	採取検査	<p>地物属性“種別”、“可視性”又は“名称”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”</p>
	非定量的主題属性の正しさ	行政界、基準点（図化機測定による標高点を除く）	全数検査	<p>地物属性“種別”又は“可視性”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロット別に、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>250m×250mの検査単位を25m×25mの100 個の25mメッシュに分割し、分割したメッシュの良/不良を判定する。 25mメッシュの範囲にエラーがなければ“良” 25mメッシュの範囲にエラーが1 件以上あれば“不良”</p>

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価手法	
			検査の種類	手順
				<p>データ品質評価尺度に基づき、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” 但し、一つの250m メッシュに適合品質水準を越える25m メッシュが存在する場合（不良な25m メッシュが特定の地域に偏って存在する場合は、たとえ検査単位全体で適合品質水準を満たしたとしても、不合格とする。 測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>
主題正確度	非定量的主題属性の正しさ	注記	抜取検査	<p>属性“文字列”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 データ作成方法別にロット（等しい条件下で作成されたデータの集まり）を形成する。 ロットを2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらに東西250m、南北250m のメッシュ（0.0625k m²/メッシュ）の検査単位に分割する。 ロットごとに、ロット全体の面積の2%の検査単位を抽出する。 検査単位の1/2（1%分）は監督員が指定するメッシュを対象とし、残りの1/2（1%分）は無作為抽出によってメッシュを選択する。 無作為抽出は、250m メッシュに一連の番号を付し、乱数表を使用して抽出する。ただし、不適当なメッシュを抽出した場合は、隣接メッシュを採用する（適当なメッシュとなるまで繰り返す。）。検査対象とするメッシュは次の条件を留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、河川等の白部でないメッシュであること。 ・ 検査対象のデータを含むメッシュであること。 ・ 重要な施設又は建物等が集中しているメッシュであること。 ・ 修正量の多い範囲を含むメッシュであること。（修正の場合） <p>データ品質評価尺度に基づき、250mメッシュ内のデータをすべて検査し、サンプルの誤率を計算する。 計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 “適合品質水準 誤率”であれば“合格” “適合品質水準<誤率”であれば“不合格” 測量区域の2%が0.25 k m²に満たない場合（測量区域が12.5k m²未満の場合）は、必ず0.25k m²（250mメッシュ4 つ）を検査する。</p>

【固定資産データパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度			
			検査の種類	手順		
完全性	過剰	固定資産地番-地番	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-番号	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
	漏れ	固定資産筆-領域	全数検査	固定資産境界の形状又はその逆向きの線分を参照しているか、電子計算機を用いて全照合。		
		固定資産地番-地番	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
論理一貫性	領域一貫性	家屋番号-番号	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産境界点-元資料	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産境界点-決定方法	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産境界点-位置	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産境界-線種	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		建物界-建物線種	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産家屋境界-境界フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産家屋境界-表示フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-眼鏡図形フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-課税フラグと台帳照合フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-課税フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-眼鏡図形フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-二重番号フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		家屋番号-台帳照合フラグ	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
	家屋番号-位置	全数検査	電子計算機を用いた全照合。			
	書式一貫性	固定資産境界-形状	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産家屋境界-形状	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
		固定資産家屋	全数検査	電子計算機を用いて全照合。		
		家屋番号	全数検査	電子計算機を用いた全照合。		
	位相一貫性	固定資産境界点-位置	全数検査	境界点の位置座標が同一であるものを、電子計算機を用いて全照合。		
		固定資産境界-形状	全数検査	電子計算機を用いた全照合		
			全数検査	電子計算機を用いた全照合		
		固定資産筆-領域	全数検査	固定資産境界の形状又はその逆向きの線分を参照しているか、電子計算機を用いて全照合		
		固定資産家屋境界-形状	全数検査	電子計算機を用いた全照合		
			全数検査	電子計算機を用いた全照合		
		固定資産家屋-領域	全数検査	電子計算機を用いて全照合		
			全数検査	電子計算機を用いて全照合		
		家屋番号-位置	全数検査	電子計算機を用いて全照合		
			全数検査	電子計算機を用いて全照合		
		位置正確度	絶対または外部正確度	固定資産境界点-決定方法	全数検査	決定コードが10である境界点について電子計算機にて全照合
					目視検査	決定コードが20である境界点について目視にて検査
			建物界-形状		-	
補助建物界-形状				-		

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			検査の種類	手順
主題正確度	非定量的属性正確度	固定資産地番-地番	全数検査	電子計算機を用いた全照合
			目視検査	元資料との目視検査による照合
	定性的属性正確度	家屋番号-番号	目視検査	全件、目視検査

【デジタルオルソフォトデータパッケージ】

データ品質要素	データ品質副要素	データ品質適用範囲	データ品質評価尺度	
			検査の種類	手順
位置正確度	絶対正確度	画像データ単位	抜取検査	<p>デジタルオルソフォトデータ上の無作為に抽出された明瞭な地物の座標を計測する。 デジタルステレオ図化機等を使用して対応する点の座標を計測する。 計測は、デジタルオルソフォトデータのデータ図郭単位で行う。 点検箇所数は、各データで21点以上を原則とする。 デジタルオルソフォトデータ上で抽出した位置の座標とデジタルステレオオルソフォトデータで抽出した座標値の誤差を測定する。 データ品質評価尺度に基づき、誤差の標準偏差を計算する。 計算した標準偏差と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 標準偏差”であれば“合格” “適合品質水準 < 標準偏差”であれば“不合格”</p>
論理一貫性	書式一貫性	データ集合全体	全数検査	プログラムにより全数全数検査する。
利用者定義	(地上分解能)	データ集合全体	全数検査	プログラムにより全数全数検査する。

7. データ製品配布

7.1. 大縮尺基図データパッケージ

「拡張デジタルマッピング実装規約(案)改訂版」(平成 17 年 3 月、国土交通省国土地理院)による「デジタルマッピングデータファイル仕様」のデジタルマッピングデータファイル仕様を原則とする。

7.2. 固定資産データパッケージ

米国 ESRI 社が提唱している、シェープファイル形式を原則とする。

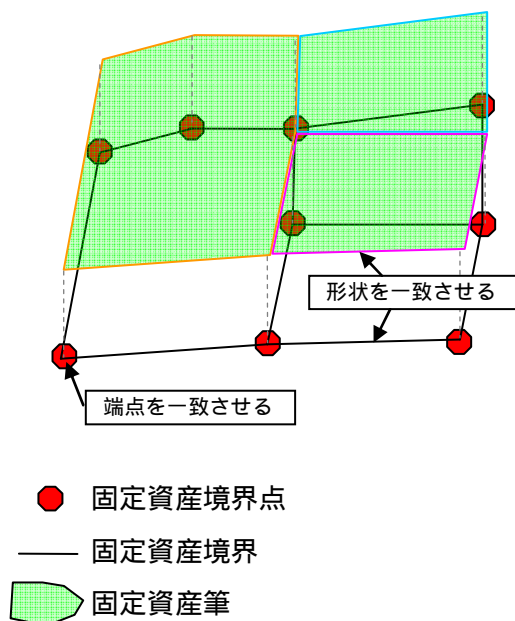
(シェープファイルの仕様は以下のインターネット上の Web サイトで公開されている。)

http://www.esri.com/gis_data/shape/index.shtml

なお、シェープファイル形式で符号化するに当たり、シェープファイル形式では位相構造(トポロジ)を表現できないため、以下のように実装するものとする。

固定資産土地パッケージ

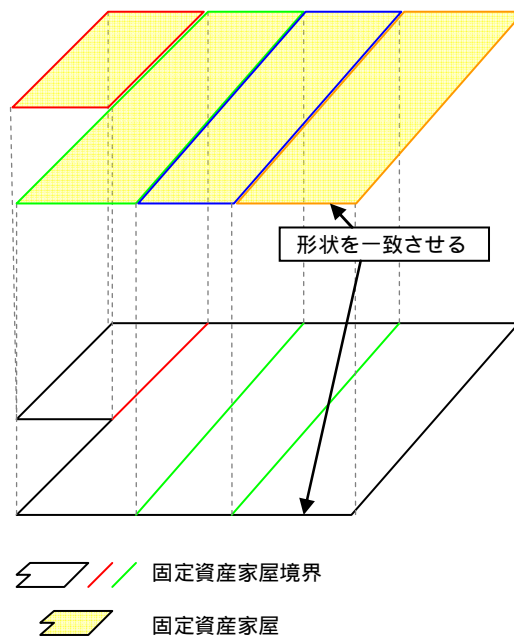
- 固定資産境界を構成する座標点は、固定資産境界点を参照することとなっている。これを実現するために固定資産境界点を構成する線分の折れ点と固定資産境界点の座標値を一致させることで、参照関係を保持することとする。
- 固定資産筆の領域を構成する辺は、固定資産境界で構成されている。このため、固定資産筆を構成する固定資産境界は、必ず 1 つ以上のインスタンスにより閉じられているものとする。
- 固定資産筆の領域を表現するために、固定資産筆の面領域を構成する辺と固定資産境界の線分の形状を一致させることとする。



固定資産家屋パッケージ

- 固定資産家屋の領域を構成する辺は、固定資産建物境界で構成されている。このため、固定資産家屋を構成する固定資産境界は、必ず 1 つ以上のインスタンスにより閉じられているものとする。
- 固定資産家屋の領域を表現するために、固定資産家屋の面領域を構成する辺と固定資産

建物境界の線分の形状を一致させることとする。



7.3. デジタルオルソフォトデータパッケージ

「拡張デジタルマッピング実装規約（案）改訂版」（平成 17 年 3 月、国土交通省国土地理院）による「デジタルマッピングデータファイル仕様」のデジタルオルソデータファイル仕様（非圧縮 TIFF 仕様によるデータファイルおよび位置情報ファイル（ワールドファイル））を原則とする。

8. メタデータ

JMP2.0（日本版メタデータプロファイル）に基づいて作成する。

9. その他

特になし。